

私のおすすめ この1冊！

川崎 仁の 歯周治療

—長期経過症例からみた治療成功の要点—

川崎 仁 著

A4 変判・228 頁・定価 15,750 円（税込）

2012 年 6 月 29 日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

宮本 泰和

（日本臨床歯周病学会理事長／京都市下京区・四条烏丸ペリオ・インプラントセンター）

ページをめくるたびに、驚きの連続である。まず、「こんな重度歯周病の歯が、こんなに長く保存できるのか！」とびっくりし、さらに「50 年も前に再生療法が行われていたのか！」と驚く。その上、再生した歯周組織の標本まで作製されていたことは、驚嘆に値する。歳のことを言うと怒られそうだが、80 歳になられた川崎 仁先生が、今回この書籍を出版されたことこそ驚きである。80 歳になられても現役で臨床を続けられ、50 年以上の長きにわたり、歯周病専門医として常に歯の保存を第一に治療されてこられたこと、さらにはインプラント治療、GBR 法、サイナスリフトなどの最先端治療まで実践されていることにも驚かされる。「このパワーは何処から来るのか？」「どうしたらこれほど長期に良好な治療結果を維持できるのか？」などと思いながら、Ⅰ章、Ⅱ章と引き込まれるように本編を読み進め、3 日間で読破してしまった。

本書の第Ⅰ章に、「当面すばらしい結果が得られたからといって成功したといえるわけではない。術後 10 年、20 年、30 年と経過したときに初めて、治療が成功したかどうかを云々できるのである」という一文がある。深い言葉である。われわれ

臨床家が目指すものは「治療結果の長期的な安定」であり、それがいかに難しいことであるか、臨床経験約 30 年の私にもやっとわかってきた。診断や治療技術だけではなく、多くの要因が影響しているからである。本書は治療後 20 年～49 年が経過した長期経過症例から、その要因を抽出し、わかりやすく伝えている。

本書の特色として、すべての症例が「歯周病の状態」「クレンジングの程度」「メインテナンスの状態」によって分類されており、症例の特徴が整理しやすくなっている。そして、症例の解説は非常に臨床的な表現で、われわれ開業医にもわかりやすい。使用材料や使用時のコツなども細部にまで述べられており、明日からでも臨床応用できるテクニックも多い。また、各症例の末尾には「本症例の対応のポイント」が記載されており、「成功の要点」が整理できるところが嬉しい。さらに、長期経過症例の数多くのデータから、メインテナンスの経過年数によって生じる問題の傾向が変わってくる事実なども示されている。これは、正に長期経過症例からみたエビデンスであり、今後の歯周治療の発展においても大きな指針となるものである。

もう一つ私の興味を惹いたのは、



付章の「歩んできた歯周治療の道」である。1958 年に大学を卒業された川崎先生は、東京医科歯科大学に日本で初めて開設された歯周病学教室に入局され、歯周病が不治の病と言われた時代に、フラップ手術を始められた。また、1970 年に日本で初めて歯周病専門医として開業されるのだが、「開業資金も十分にはないのに、メディカルニッコールだけは無理をして用意した」というエピソードから、日本の歯周治療の発展のために治療の記録を残すことに大きな重責を感じておられたと察することができる。1983 年には臨床歯周病談話会を 30 名のメンバーと共に設立される。そして、30 周年を経て、会員数 3,000 名を超える大きな臨床家のための学会（日本臨床歯周病学会）となり、日本の歯周治療を牽引する学会にまで発展させてこられた。川崎先生の存在なくして、日本の歯周治療はここまで発展しなかったのではないだろうかと思う。

歯周病が進行した歯が安易に抜歯され、インプラントに置き換わる傾向が強くなった現在、もう一度「一本の歯の保存へのこだわり」を考えるために、多くの歯科医に読んでいただきたい「歯周治療のバイブル」のような一冊である。